興行物天使

――或る後日譚として――

李箱

青空文庫

整形外科はヲンナの目を引き裂いてとてつもなく老ひぼれた曲芸象の目にしてしまつたのである。ヲンナは飽きる程笑つても果又笑はなくても笑ふのである。

ヲンナの目は北極に邂逅した。北極は初冬である。ヲンナの目には白夜が現はれた。ヲンナの目は膃肭臍の背なかの様に氷の上に滑り落ちてしまつたのである。

世界の寒流を生む風がヲンナの目に吹いた。ヲンナの目は荒れたけれどもヲンナの目は恐ろしい氷山に包まれてゐて波濤を起すことは不可能である。

ヲンナは思ひ切つてNUになつた。汗孔は汗孔だけの荊莉になつた。ヲンナは歌ふつもりで金切声でないた。北極は鐘の音に慄へたのである。

◇　◇

辻音楽師は温い春をばら撒いた乞食見たいな天使。天使は雀の様に痩せた天使を連れて歩く。

天使の蛇の様な鞭で天使を擲つ。

天使は笑ふ、天使は風船玉の様に膨れる。

天使の興行は人目を惹く。

人々は天使の貞操の面影を留めると云はれる原色写真版のエハガキを買ふ。

天使は履物を落して逃走する。

天使は一度に十以上のワナを投げ出す。

◇　◇

日暦はチヨコレエトを増す。

ヲンナはチヨコレエトで化粧するのである。

ヲンナはトランクの中に泥にまみれたヅウヲヅと一緒になき伏す。

ヲンナはトランクを持ち運ぶ。

ヲンナのトランクは蓄音機である。

蓄音機は喇叭の様に赤い鬼青い鬼を呼び集めた。

赤い鬼青い鬼はペンギンである。サルマタしかきていないペンギンは水腫である。

ヲンナは象の目と頭蓋骨大程の水晶の目とを縦横に繰つて秋波を濫発した。

ヲンナは満月を小刻みに刻んで饗宴を張る。人々はそれを食べて豚の様に肥満するチヨコレエトの香りを放散するのである。

一九三一、八、一八

青空文庫情報

底本：「李箱作品集成」作品社
2006（平成18）年9月15日第1刷発行
底本の親本：「朝鮮と建築　第十集第八号」朝鮮建築会
1931（昭和6）年8月
初出：「朝鮮と建築　第十集第八号」朝鮮建築会
1931（昭和6）年8月
入力：坂本真一
校正：hitsuji
2019年3月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

興行物天使

——或る後日譚として——

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　李箱
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/